



読者アンケートのお願い

ネグロスタイムズを最後までお読みいただきありがとうございます。
ご意見・ご感想をいただきたく、ぜひアンケートにご協力ください。



ネグロス電気株式会社
〒136-0071 東京都江東区亀戸2-40-1
TEL:03-5628-7111 <https://www.negurosu.co.jp/>



NEGUROSU TIMES 2025 令和7年5月26日発行 発行所 ネグロス電気株式会社

特集 ネグロス電工とネグロス島

Negurosu Times

ネグロスタイムズ 2025

06

事業を通じた社会貢献、働き方改革、環境への取り組みなどを紹介するPRマガジン



 **ネグロス電工**
NEGUROSU



Page
04



特集：未来を担う若手人材

Page
10

ネグロスタイズ第6号をお届けいたします

現代社会は目まぐるしく変化しており、常に新しい情報や技術への適応が求められます。本号では、そのような社会における物流問題、人手不足、環境配慮、SDGsといったさまざまな課題に対し、真摯に取り組む当社の活動内容をご紹介します。どうぞ最後までご覧ください。

ネグロスタイズ編集スタッフ一同



Page
06

特集：ネグロス電工とネグロス島

SPECIAL FEATURE



Page

数字で見る
ネグロス電工

NEGUROSU AT A GLANCE



Page
16

活動報告（事業）熊本営業所の取り組みと物流改革

BUSINESSES



Page
18

活動報告（環境）ネグロス電工の環境への取り組み

ENVIRONMENT



活動報告（社会）従業員一人ひとりが取り組む健康経営

Page
20

活動報告（社会）ネグロス電工の安全への取り組み



Page
22

EMPLOYEES



Page
24

活動報告（社員）従業員の成長と働きやすさを両立

CONTENTS

- 02 インデックス
- 04 トップメッセージ
- 06 特集：ネグロス電工とネグロス島
- 10 特集：未来を担う若手人材
- 14 数字で見るネグロス電工
- 16 活動報告（事業）
- 18 活動報告（環境）
- 20 活動報告（社会）
- 24 活動報告（社員）
- 26 コーポレートデータ



コーポレートデータ

Page
26

経営理念

わがネグロス・グループは 創業の精神に則り
常に業界においてトップを目指し
堅実経営に心がけ 顧客の要望に合う電設工事を
また個性豊かな高品質の商品を創造し
顧客の喜び満足から 企業の発展充実を計り
一部を社会へ奉仕還元して
顧客の利益 社員の利益 企業の利益を実現して
企業存続を計ることを基本経営理念とす

（昭和53年4月1日改訂）

Cover Introduction



表紙撮影に協力いただいた熊本営業所のみなさん。
左から順に内川さん、安東所長、木田さん、畑本さん。

生産年齢人口減少による 物流の問題

日本は現在、生産年齢人口の減少という深刻な問題に直面しています。この問題はさまざまな業界において事業活動に支障をきたすおそれがあり、物流業界にも大きな影響を与えています。労働力不足を背景とした長時間労働を是正するために規制強化がなされ、『物流の2024年問題』としてサプライチェーン全体に影響を及ぼしており、サービスを維持するために物流の効率を高めることが課題となっています。この状況下において、当社は安定した商品供給が顧客サービスとして極めて重要であると認識しています。

九州に新たな物流拠点開設へ

九州地方では、エレクトロニクス分野をはじめとする企業の工場建設や設備投資が急速に進んでおり、電設資材業界においてもこれらの需要に迅速かつ的確に応えるための体制構築が急務となっています。このような状況を踏まえ、当社は新たに福岡県北九州市に生産物流拠点を建設

することといたしました。2027年の開設に向けて準備を進めています。現在は栃木県、千葉県、滋賀県に主要な物流拠点を構えておりますが、新しい物流拠点を九州に設けることで、周辺地域に向けての物流を強化し、お客様のご要望に合うよう在庫管理や配送サービスの向上に取り組んでいきます。

安定した物流で社会に貢献

当社は、九州地方へのサービス強化だけでなく、社会全体への貢献を重要な目標として掲げています。今後は輸送にモーダルシフトを採用しトラックへの依存を軽減することで、『物流の2024年問題』に対処していきます。また、物流拠点を全国の広範囲に設けることで、首都直下地震などの自然災害が発生した際にも事業を継続できる体制をより一層強化します。これらの取り組みを通じて安定した物流、供給の体制を構築してまいります。

今後も、お客様にとって不可欠な企業であるためにさらなる努力を続け、社会に貢献してまいります。

ネグロス電工と物流の 未来

～安定供給体制の構築を通じて社会に貢献します～

ネグロス電工株式会社 代表取締役社長
菅谷 三樹生



変わらぬ想いと新たな未来

ネグロス電工とネグロス島

当社は、ネグロス島の教育支援や生活インフラの整備など、さまざまなプロジェクトを実施してきました。これまでの支援活動のあゆみを振り返りながら、その成果と今後のビジョンについて紹介いたします。

ネグロス電工の「ネグロス」とは

ネグロス電工の社名は、創業者・菅谷政夫が戦時中に過ごしたフィリピン・ネグロス島での経験に由来しています。

菅谷にとってネグロス島は、生死を分ける過酷な戦場であり、多くの戦友を失いました。戦後、亡き戦友の分まで働き、社会に奉仕することを誓い、その想いを忘れないために、島の名を冠した「ネグロス協電社」を創業し、現在に至ります。

創業以来、菅谷が掲げた「利他主義」の精神は、今もお受け継がれ、ネグロス電工の企業理念の柱となっています。

ネグロス島教育支援プロジェクトのはじまり

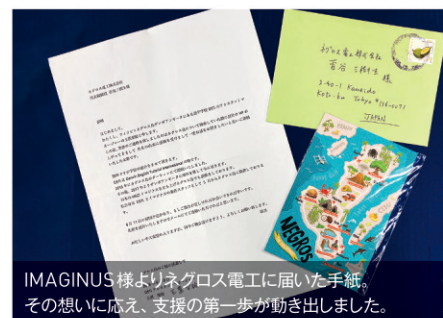
2019年、フィリピンやインドで教育支援を行う特定非営利活動法人IMAGINUS様から「ネグロス島の子どもたちへの支援を共に進めていきませんか?」という一通の手紙が届きます。ネグロス島との深い縁を持つネグロス電工にとって、その呼びかけは大きな意味を持つものでした。ネグロス島の現状を踏まえ「私たちにできる支援は何か?」を模索した結果、2020年10月、ネグロス島の子どもたちを救うためのプロジェクト「ネグロス島教育支援プロジェクト」が始動します。

フィリピン・ネグロス島の現状

ネグロス島はフィリピン中部のビサヤ諸島に位置し、フィリピンで4番目に大きな島です。

島内の最大都市であるバコロド市は「微笑みの街」として知られ、島の住民は陽気で人懐っこい性格が多いと言われています。

島内では砂糖の生産が盛んで、広大なサトウキビ畑が広がっていますが、その収入は低く、多くの住民が貧困に苦しんでいます。経済的な理由で通学費用を捻出できず学校に通えない子どもたちや、遠方に住んでいるため通学が難しい家庭も多く、教育を受けられるかどうかは家庭の状況に大きく左右されています。こうした環境が、地域の教育格差をさらに深刻なものにしています。



IMAGINUS様よりネグロス電工に届いた手紙。その想いに応え、支援の第一歩が動き出しました。



島民の多くはサトウキビ生産を主な仕事としており、低賃金のため多くの家庭が子どもの学費を捻出できない状況にあります。



学生の自宅は、学校から徒歩1時間以上離れた場所にあることも珍しくなく、通学には多くの時間と費用が必要となります。

ネグロス島教育支援プロジェクト

ネグロス島教育支援プロジェクトでは、奨学金・寄宿舎建設・仕事づくりの3つを支援の柱とし、子どもたちの未来のために、学びの機会と安定した生活基盤を提供しています。

奨学金プログラム

奨学金支給によって学べる環境をサポート

経済困難により学校に通えない子どもたちをサポートするため、中高生12名に対して継続的に奨学金を支給しています。この奨学金は、子どもたちが遠方の学校まで通うための交通費や、教科書、文房具などの購入費として使われています。



奨学金セレモニーの様子

寄宿舎建設

親元を離れ安心して生活を送れる寄宿舎

ネグロス島では、家庭の経済状況や山間部などの地理的条件により、学校に通いたくても通えない子どもたちが数多くいます。こういった子どもたちが安心して生活し、学校に通える環境を提供するための寄宿舎を建設しました。寄宿舎は役割ごとに4棟に分かれており、電力は全て太陽光発電により賄われております。



寄宿舎「Malika」

仕事づくり事業

子どもたちの家庭を収入面からサポート

貧困に苦しむ農村部に安定した仕事を提供し、家庭の基礎収入を増やすことで、より多くの子どもたちが教育を受けられる環境を目指しています。これまでに、アバカ素材のバッグやミサンガの製作、ネグロス島の伝統技法で作られるマスコバド糖を活用したノベルティ製作に取り組んできました。



ネグロスシュガーの梱包の様子

創業の精神「利他主義」のもと未来への架け橋を築く

ネグロス電工は、創業当初より「利他主義」を企業理念とし、社会貢献を使命としております。ネグロス島への支援は、私たちにとって「果たすべき責務」と考え、プロジェクトを立ち上げました。現在は「仕事づくり事業」の拡大を重要なプロジェクトの柱とし、地域の自立と発展を促進するため、課題解決に真摯に取り組んでいます。

この支援活動は、日頃より当社商品をご愛顧くださるお取引先様をはじめ、多くの皆様の温かいご支援とご協力の賜物です。今後は、このプロジェクトにご賛同いただける皆様とともに歩む機会を広げ、より発展的な取り組みへと進化させていきたいと考えています。

ネグロス島プロジェクト 統括責任者 高木 一郎



ネグロス島教育支援プロジェクトのあゆみ

2020年のプロジェクト発足以来、奨学金・寄宿舎建設・仕事づくりの3つの支援を柱に、ネグロス島の子どもたちと地域社会を支えてきました。そのあゆみを、これまでの軌跡とともに振り返ります。

2020



2020.03
ネグロス島教育支援プロジェクト始動
ネグロス電工代表取締役社長 菅谷三樹生と元IMAGINUSのプロジェクトコーディネーターの玉置様が固い握手を交わしました。



2020.10
仕事づくり：鞆製作
当社のカタログバッグを製作するため、現地スタッフと協力し、何度も試作を重ねました。鞆の素材はフィリピンの特産アバカ(マニラ麻)を使用しています。

2021



2021.02
第1回 奨学金セレモニー
学生9名への奨学金支給を開始。当時はコロナ禍により、保護者のみの出席となりました。



2021.12
台風被害による学校復興の義援金
2021年にフィリピンを直撃した台風の被害により、子どもたちが通う校舎が倒壊しましたが、プロジェクトの支援により校舎を再建。写真は復興時に学校へ来訪したときの様子です。

2022



2022.04
仕事づくり：ミサンガ製作
仕事づくりプロジェクトにてミサンガを製作。制作されたミサンガは当社の就職見学会などに参加した学生向けに配布されました。



2022.05
第2回 奨学金セレモニー
奨学金支給者を10名へ増員。奨学金は学習に必要な文房具の購入費などにも活用されています。

2023



2023.02
寄宿舎建設工事再開
コロナ禍の影響で停滞していた時期を乗り越え、無有建築工房様をはじめとする企業と協力し、「日本とフィリピンの融合」をテーマとした寄宿舎建設工事が再開しました。



2023.02
仕事づくり：ネグロスシュガー
ネグロス島のサトウキビから作られる「マスコバド糖」。このパッケージ梱包作業を仕事づくりとして委託しました。出来上がった品は、当社の展示会ノベルティとして配布しています。

2024



2024.03
寄宿舎「Malika」完成
寄宿舎・託児所・管理棟・ダイニングの4棟で構成されており、フィリピンの国花であるジャスミンの和名「茉莉花」にちなんで、「Malika(マリカ)」と名付けられました。



2024.03
みどりの架け橋プロジェクト
当社のネグロス島支援プロジェクトの一環として、寄付金を提供しました。併せて、子どもたちの学習環境向上のため、ノートPC8台を寄贈しました。



2024.10
第3回 奨学金セレモニーの開催
奨学金支給者を10名から12名へ増員。式典には、生徒の保護者をはじめ、ザンボアンギータ市長代理など多くの方々が出席されました。

未来を担う若手人材



Recruitment —採用活動から入社まで—

当社は採用活動を通じて「人々の暮らしを支える電設業界」の魅力を学生の皆さんに伝えています。
また、社会人生活をスタートさせる学生の不安を安心に変え、
入社までの日々を楽しみに過ごしてもらうための取り組みを行っています。

Recruitment 1

1Day仕事体験 (営業職・技術職)

1Day仕事体験は進路を考える学生に当社や電設業界をより身近に感じてもらうことを目指した取り組みです。営業職では顧客情報の収集から提案までを、技術職では設計や製品開発など複数の業務を体験できます。例えば技術職の業務体験では、ケーブルラックの施工図面を作成し、工事現場に見立てたブロック玩具の立体模型へ施工を行います。グループで目的を達成するだけでなく、施工効率やコストも意識して最善の方法を探ることで、業務の難しさや面白さを体感できるプログラムとなっています。



Recruitment 2

大学からの 実習受け入れ

当社は複数の大学と提携し学生の実習を受け入れています。企業での実習は、大学で学んだ知識を実務に結び付け実践的な学びをサポートするとともに、学生のキャリアデザインにも役立つ取り組みとなっています。採用活動ではありませんが、実習をきっかけに当社や電設業界に興味を持ち、選考を経て入社した学生も多くいます。



大学で学んだ知識が、製品の製造工程の効率化や安全性向上のために役立っていることが実感できました。
(4年目・技術・男性)



Recruitment 3

職場見学

希望した学生を対象に、職場の見学と先輩社員との懇談会を実施しています。「どんな雰囲気の人が多い?」「朝の出社時間は?」など、面接では聞きづらい小さな疑問や不安にも先輩社員が真摯に対応します。職場の雰囲気を実際に感じてもらい、安心して入社してもらうことを目指した取り組みとなっています。



業務についてだけでなく、不安に思っていることをすべて解決してもらいました。
(2年目・技術・女性)



年齢や社歴に関わらず、話し合い質問をし合う様子を見て、雰囲気が良い職場だと感じました!
(2年目・製造・男性)



Recruitment 4

内定者懇親会

当社は10月1日にレクリエーションをメインとした内定者懇親会を行っています。同期と親睦を深めることは入社前の不安を和らげるだけでなく、入社後も横のつながりを活かして円滑に業務に取り組むこと、また互いに切磋琢磨してモチベーションを向上させることにつながります。



懇親会などを通じて同期と仲良くなれたことがきっかけで、今では営業職の同期全員で日々学んだことを共有し合っています。互いに高め合える良い関係が築けていると感じます。
(2年目・営業・女性)





Retention ー入社後、長く働き続けるためにー

雇用が流動化する現代において「働き続けられる環境の整備」は企業と従業員の双方にとって重要です。当社は、新入社員をはじめすべての従業員が安心して長く働ける環境を整え、企業と従業員の相互利益を目指して取り組んでいます。

Retention 1

充実した研修・OJT制度

当社は部門や階層ごとに細かく分かれた研修制度を整備しており、従業員それぞれが期待される役割とそれを実現するために必要な知識を学び、具体的な目標を持って成長できる環境を整えています。また、新入社員を育成するOJT担当社員にも専用の研修を実施し、先輩社員が新入社員の悩みや不安に寄り添いながら、目指す姿に向かい計画的に育成を行う体制を整えています。



就職して初めての一人暮らしなので、健康管理をしっかりしなくてはと思い、平日の退勤後は料理に取り組んでいます。

2年目社員インタビュー

新入社員研修ではより良いコミュニケーションについて学んだことが印象的でした。さまざまな失敗事例を見て自分にも当てはまる部分があると感じ、相手の伝えたいことを深掘りして理解する必要性を感じました。OJTでは先輩社員に質問をすると必ず理由も教えてもらい、漠然とした作業にならないようにしてくれているのだと感じます。結果を見てフィードバックももらえるので成長を実感できています。

技術本部 研究部 研究一課 刈込 俊樹

2年目社員インタビュー



物流本部 物流部 佐野商品センター
吉田 龍星

入社当初はわからないことがたくさんありますが、全面的にサポートしてもらえる環境です。初めは不安だった重量のある商品の運搬も、先輩社員の指導のおかげで苦手意識を克服することができました。

Retention 2

借り上げ社宅・寮制度

※社有社宅(寮)もあり

30歳未満の独身社員及び40歳未満の既婚社員に対し、会社が借り上げた賃貸物件を社宅寮として提供し、安価な使用料で住むことができる制度です。また、条件内であれば不動産会社から紹介された賃貸物件の中から部屋を選ぶことができます。

社員の暮らしを経済面からサポートすることで、入社直後の不安を解消するだけでなく、資産形成など将来的な見通しを立てやすくなり、社員が安心して長く働くことができる制度となっています。

2年目社員インタビュー



営業本部 近畿営業部 大阪営業所
久保 綾美

地元を離れて社会人生活をスタートさせるにあたり、借り上げ社宅・寮制度のおかげで経済的な安心感を得ることができました。綺麗でセキュリティ性の高い物件に住み、おうち時間を快適に過ごすことが、仕事へのモチベーションアップにも繋がっていると感じます。

Retention 3

ワークライフバランス

当社は従業員が心身ともにリフレッシュした状態で仕事に取り組み、より良いパフォーマンスが発揮できるよう、ワークライフバランスの充実に力を入れています。過去には経営方針として大規模な制度改革や意識改革を行い、現在では「残業時間をできる限り削減すること」「有給休暇を積極的に使うこと」が当たり前の組織風土として根付いています。

また、テレワークや育児休業など、さまざまな人生プランに寄り添い、長く働き続けられる環境づくりにも力を入れています。

有給休暇取得率 **78.3%** 月平均残業時間 **10.7時間** 年間休日 **127日**

まだまだ勉強中ですが、お客様が困った時に、「とりえず山田に聞いてみよう!」と頼っていただけるような営業になりたいです。

2年目社員インタビュー

定時退勤した日は病院に行ったり映画を見たりと、帰ってからの時間をしっかり確保できています。営業所長が率先して「帰ろぞ」「あんまり無理してないか」と声をかけてくださるので、困ったときに相談もしやすいです。

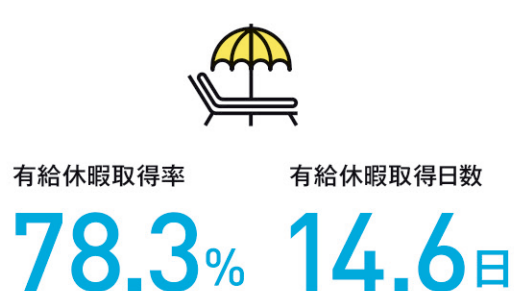
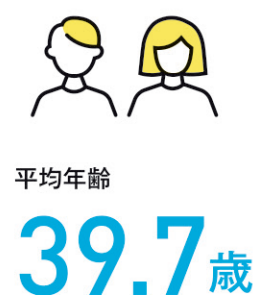
先日は三連休に有給休暇を繋げて山口・広島旅行に行きました。ドライブが好きなので大阪から車で行ったのですが、お休みをいただけたからこそ、そうやってのんびり旅行ができたかなと思います。

営業本部 中部営業部 名古屋営業所 山田 百華

数字で見る ネグロス電工

社会やステークホルダー、
環境とともに歩むネグロス電工の「いま」を数字で紹介します。

事業の数字

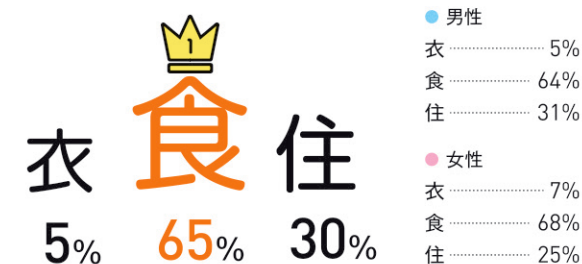


環境の数字

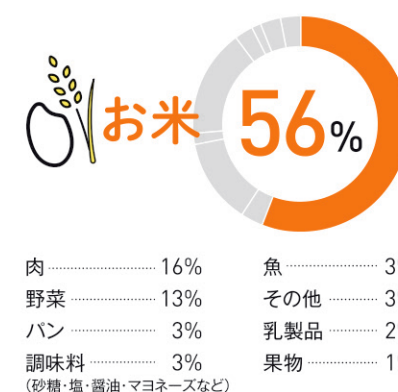


社員の数字

Q 衣食住、一番重きを置いているものは？



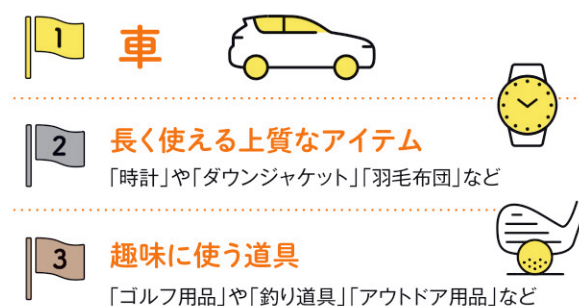
Q 価格が上がっても譲れない食品は？



思わず衝動買いしてしまう
キャッチコピーランキング

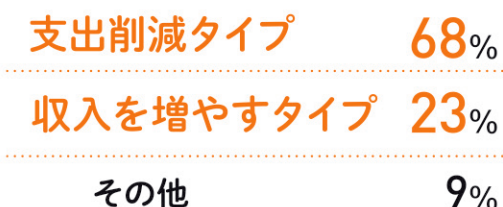


良い買い物だったランキング

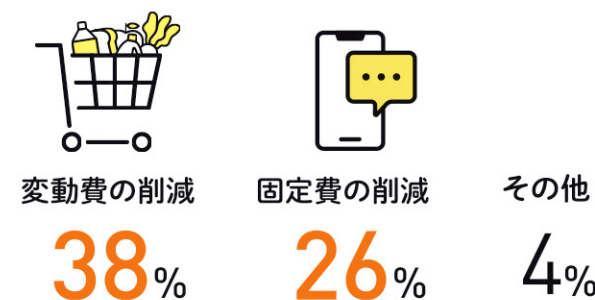


ネグロス社員の生活事情

Q 物価高対策としてのあなたのタイプは？

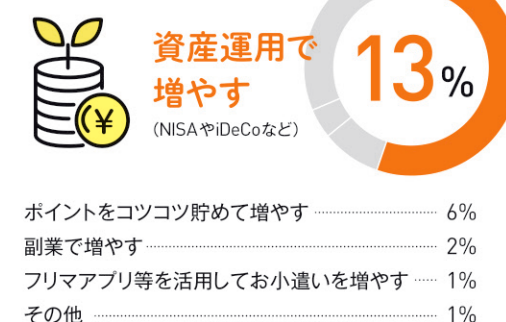


支出削減タイプ

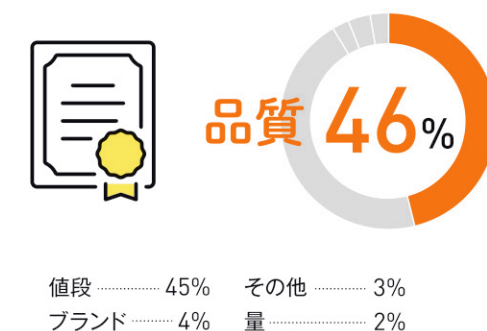


変動費で多かった対策は「まとめ買い」でした。固定費で多かった対策は「スマホプランの見直し」「お風呂の湯量を減らす」でした。

収入を増やすタイプ



Q 買い物時に重視するポイントは？



熊本営業所の取り組みと物流改革

近年、九州地方では新規施設の建設や設備投資が活発化しており、特に半導体関連企業の進出が顕著です。今回は、その物件対応の先頭に立つ熊本営業所の取り組みの一部をご紹介します。

工期短縮に向けての提案と連携

半導体大手TSMCの日本法人であるJASM熊本第一工場は、国内最大級の半導体工場でありながら、わずか2年という短い工期で完成しました。その陰には、この建設に携わった多くの企業の工夫や努力があったといわれています。当社も微力ながら、工事資材メーカーとしてさまざまな課題に取り組みました。



JASM熊本第一工場（TSMC）

課題の一つであった施工時間の短縮には、少人数かつ短時間で施工を可能にするハヤテク®シリーズをご提案することで、現場の効率化に貢献できるよう努めました。また、作業性と安全性の両立という課題には、資材や工具などの落下事故を防ぐシャフトセーフ®をご提案し、安全な作業環境づくりの支援をさせていただきました。さらに、大型物件ならではの課題として、各工区で管理方法が異なるために発注や納品といった管理業務が煩雑化してしまう点に着目し、工区が分かれていても共通で管理することができる発注フォーマットをご提案しました。この

発注フォーマットは現場の管理負担軽減だけではなく、当社側の供給体制を整える効果もありました。

これらの取り組みによって省力化と安全作業、そしてタイムリーな資材納入に貢献できましたが、これも全て現場の方々のご理解とご協力があったものであり、日ごろからの関係づくりの大切さを改めて感じさせられた現場となりました。



中間支持用ハンガー吊り金具
ハヤテク®シリーズ



床貫通部用落下物
防止ネット



営業本部 九州営業部
熊本営業所

内川 慎二

地域企業とともに築いた相互協力の物流

JASMの工期中は、通常よりも短い納期での出荷も多く、緊迫した対応が続きました。そこで少しでも早く現場に商品をお届けするために、まずは商品管理方法の見直しと改善に努めました。さらに、ドライバーの運行時間を確保するため運送会社様とも連携し、荷積みによる待機時間の削減に取り組みました。

また、熊本営業所の倉庫では抱えきれないほど多くの商品物量にも苦慮していましたが、代理店様が新たな

在庫場所を確保してくださりました。その在庫場所についても地元運送会社様よりご提供の申し出をいただくなど、多くの方々のご協力のおかげで在庫スペースと安全な作業環境を確保することができました。

こうして地域企業とともに築き上げた協力体制によって、今回のような大型物件も無事に対応することができたのだと思います。



営業本部 九州営業部
熊本営業所

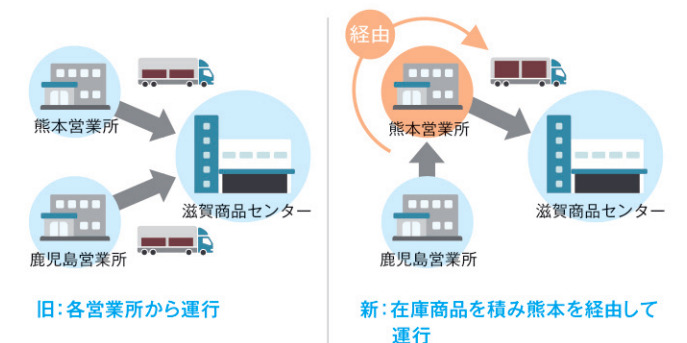
畑本 修平

物流課題と向き合い構築した社内協力体制

熊本営業所へは滋賀の商品センターから商品を配送していますが、滋賀から熊本までは相当の距離があるため、さまざまな工夫を凝らしています。

今回新たな取り組みとして、営業所から商品センターへ戻る社内配送便の有効活用を開始しました。従来の社内配送便は各営業所と商品センター間のみの運行でしたが、近隣の鹿児島営業所と協力し、鹿児島から滋賀間の配送ルート内に熊本営業所を追加しました。この便を使うことで鹿児島に在庫している商品も効果的に

活用できるようになり、JASMなどの大型物件にも柔軟に対応できるようになりました。



九州初の商品センター

長距離輸送などのさまざまな物流課題に対処すべく、当社は北九州市に新たな物流拠点を建設いたします。

それに先立ち、2025年2月に北九州市役所にて立地協定締結式が執り行われました。

九州の活発な需要に対応できる体制を構築することで、地域の発展にも貢献してまいります。



立地協定締結式：左から 代表取締役社長 菅谷三樹生、
北九州市市長 武内和久様、常務取締役 菅谷研司

熊本営業所について



熊本営業所は九州中部地区を担う営業拠点として1991年5月に開設されました。2008年に現在地へ移転し、主に熊本・大分県内への営業活動を行っています。

熊本は地震や豪雨などの自然災害の多い地域ですが、一方で災害への備えや助け合いの意識が強い地域です。営業所でも、自治体が運営する防災セミナーの受講や災害

訓練に参加することで、万が一の災害時でもその後の復旧工事になるべく早く対応ができるよう取り組んでいます。

これからも地域と協力しながら、お客様にご満足いただけるサービスを提供してまいります。

営業本部 九州営業部 熊本営業所 所長
安東 孝郎



ネグロス電工の環境への取り組み

当社は2021年10月に環境ビジョンを策定しました。

【環境ビジョン】「持続可能な社会の実現のために地球環境への負荷を最小限にする取り組みに挑戦を続けます。」

今回は当社の環境に配慮した取り組み事例をご紹介します。

塗装における環境配慮 「オゾン式塗装ブース水浄化装置」導入

当社のケーブルラックは、加工から組立・溶接、塗装、梱包まで一貫体制にて生産をしています。その中の塗装工程に使用される塗料には、さまざまな有害物質が含まれていますが、工場稼働開始時から、これらを外部に排出しないクローズドシステムを採用しています。

このクローズドシステムは、工場で発生する排水中の有害物質を回収し、外部への排出を防ぐ仕組みです。焼付塗装時に発生する排熱を利用して廃液の水分を蒸発させることで有害物質のみを分解抽出しており、海や川を汚さない取り組みとして長年にわたり継続しています。

また当社のケーブルラックは、お客様の要望に応じた色の塗装も行っており、標準色の設備とは別の指定色塗装設備を用いて製造を行っています。

指定色塗装には、静電気を利用して製品に塗料を付着させる静電塗装を用いています。この静電塗装には、自動塗装の工程と作業者が直接スプレーガンで塗布する作業があり、それぞれ製品目がけて塗料を噴射しますが、その仕組み上、付着しきらない余剰塗料が一定量発生してしまいます。その余剰塗料を吸い込み周囲に飛散させないための設備を「湿式ブース」といいます。

ネグロス標準塗装のケーブルラック

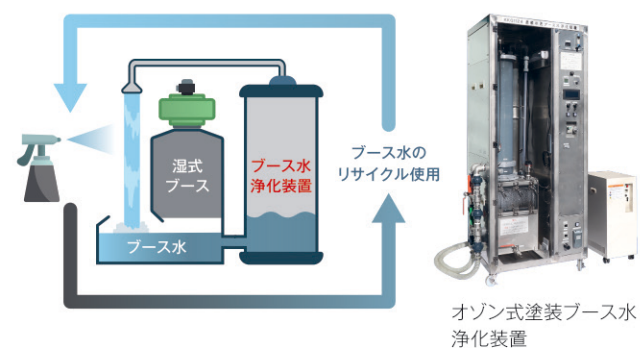
指定色塗装したケーブルラック

湿式ブースは、設備の壁一面に水を流し続けることによって余剰塗料を回収しているため、常に水を循環させておく必要があります。この循環水には塗装作業を行うごとに余剰塗料が蓄積されていくため、ブース内の循環水をきれいに保つために3カ月に一度水の交換を行っていますが、多量の水を使用することや水と塗料が混ざることによって放たれる臭いなどが課題となっていました。

そこで今回、当社は新たに「オゾン式塗装ブース水浄化装置」を導入しました。この装置は、オゾンを用いて循環水の殺菌・分解・脱臭などを行うため設備内の臭いが大幅に改善し、また従来よりも水をきれいな状態に保てるため、循環水の交換が6カ月に一度となり、水の使用量も約半分となりました。さらに、余剰塗料も分解・減容されるため、産業廃棄物処理量も約27%削減することができました。

今後も当社は、塗装における有害物質の排出を防ぎ、水資源を有効活用することで環境負荷を低減しながらより良い商品を提供し続けていきます。

● 湿式塗装ブース



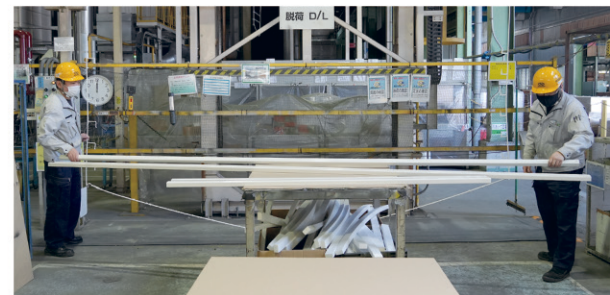
オゾン式塗装ブース水浄化装置



指定色塗装を行う設備



スプレーガンによる塗布作業



塗装した商品を梱包する様子

エアリーク点検強化 「エアリークビューアー」の導入

当社は、産業用コンプレッサーのエア（空気）漏れ点検を強化するため「エアリークビューアー」を導入いたしました。

産業用コンプレッサーは設備の動力として欠かせず、当社も全ての工場へ導入しています。一般的にその電気使用量は工場全体の2～3割を占めるとも言われますが、エアは目には見えないため、無駄な電気使用に繋がるエアリークの点検は困難で、従来は音でしか判断すること

ができませんでした。また、工場稼働時は多くの設備音によってエアリークの音の判別ができず、稼働前や稼働後などの静かな時間帯で点検を行う必要がありました。

「エアリークビューアー」は、特殊なカメラを用いてエアリークを目視で判断することができるため、設備稼働中はもちろん、従来では困難だった高所などの点検も容易に実施することができます。無駄なエアリークを防ぐことで、電気使用量とCO2排出量を削減しています。



「エアリークビューアー」を使用してエアリークを点検しています。



エアリークが判別できない様子



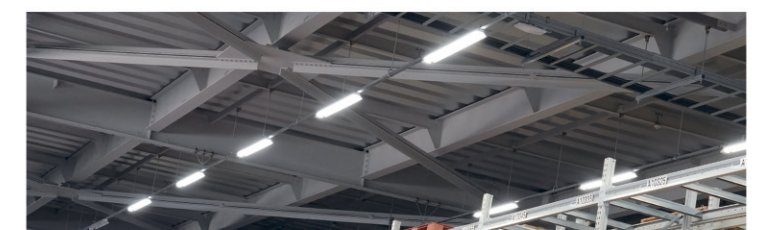
エアリークが判別できる様子

佐野商品センター 人感センサー付きLED照明導入

佐野商品センターでは、作業者がいない場所においても常に照明が点灯しており、無駄な電気使用が課題となっていました。そこで今回、必要な場所のみを照らすことができる人感センサー付きLED照明を導入しました。

人感センサー付きLED照明は、人の動きを感知して自動で点灯・消灯ができるため、使用頻度が一定ではない通路や保管場所が多い倉庫施設では、特に省エネ効果を発揮します。今回の導入により、佐野商品センターでは電気使用量を約30%削減することができました。

今後は、当社が保有する船橋と滋賀の商品センターへの横展開も実施していきます。



より省エネ効率が高い人感センサー搭載のライトを導入しました。



自動消灯の様子



自動点灯の様子

従業員一人ひとりが取り組む健康経営

健康経営の推進には、従業員が健康について関心を持ち、行動に移すことが重要です。当社は会社主導の健康経営に代わり、従業員が主体的に健康増進を図る体制を目指し、健康づくり担当者を中心に取り組んでいます。

健康経営優良法人(大規模法人部門)5年連続認定

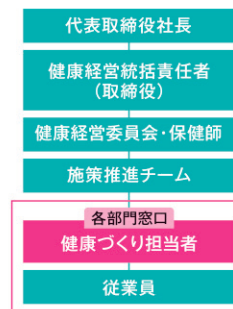
「健康経営」とは従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に実践する取り組みのことです。当社は2021年から「健康経営優良法人(大規模法人部門)」の認定を5年連続で取得しています。



健康づくり担当者 チャレンジ2024

全事業所に配置された健康づくり担当者は、当社の健康経営の中核である健康経営委員会と従業員の橋渡しの役割を担っています。当社の健康経営は、これまでの「会社が主体となって従業員へ働きかけていく」体制から、「従業員一人ひとりが自発的に行動し推進していく」体制への転換期を迎えており、健康づくり担当者はその要となる存在です。

昨年度は新たな施策として「チャレンジ2024」を掲げ、事業所ごとに目標を定め、健康づくり担当者が中心となって達成に向けた施策を独自に立案・実施しました。事業所レベルで「課題はどこにあるのか」「どのような対策が有効か」を考えることで、従業員が主体となって行動するボトムアップ型の健康経営への転換を図っています。



チャレンジ2024 各事業所の取り組み

- 受動喫煙防止の推進
- 運動機会提供による運動習慣化の推進
- 女性特有の不調に関するヘルスリテラシー向上の推進
- 「首や肩のコリ」「腰痛」対策の推進
- 朝食欠食習慣の改善推進



京都営業所

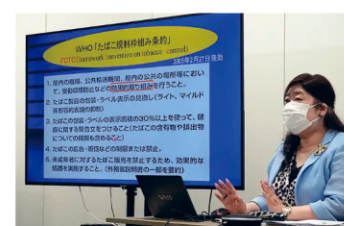
受動喫煙防止の推進



以前は倉庫の入り口や自動販売機の近くに喫煙所があり、受動喫煙のリスクがあったため、喫煙場所の変更・改善に取り組みしました。改善後のアンケートでは、所員全員がたばこの煙やにおいを感じなくなったと回答しました。取り組みにあたり所内で意見交換を行い、営業所全体で受動喫煙防止に対する意識が向上したと感じており、皆が気持ち良く仕事をできる環境づくりに今後も取り組んでいきたいと思っています。

全社での取り組み 受動喫煙防止講習会

国際医療福祉大学の斎藤照代教授を講師に迎え、全国の健康づくり担当者を対象に「受動喫煙防止講習会」を開催しました。職場の受動喫煙対策の重要性を改めて認識するとともに、効果的なアプローチについて学ぶ機会となりました。環境整備が特に重要となる受動喫煙対策では、健康づくり担当者が喫煙場所の見直しなど各事業所の状況に合わせた施策を行っています。



浦安工場

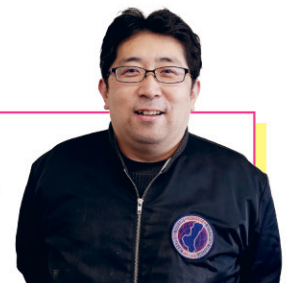
女性特有の不調に関するヘルスリテラシー向上の推進



浦安工場には女性従業員が多く、職場環境をより良くしたいと考えて目標を設定しました。産業医に講話を依頼し、工場の全従業員が男性・女性の体の仕組みや不調時の症状について学びました。質疑応答の場では積極的に意見交換が行われ、「また開催してほしい」という声もありました。従業員が互いに理解し合い協力し合うことで、快適な職場環境に繋がっていき、作業ミスの低下や定着率のアップなどより良い結果に繋がっていきたいと思います。

製造本部 第一製造部
浦安工場 係長

小倉 薫



全社での取り組み eラーニング

昨年度は全従業員を対象に、女性の健康・睡眠・受動喫煙についてのeラーニングを実施しました。女性の健康についてのeラーニングには、「実際に話を聞くことが難しい部分もあるので、オンラインの教育体制があり助かる」「子どものHPVワクチン接種について考えてみる」などの声があがり、男女を問わず職場環境の改善や従業員自身とその家族の健康へ関心を持つきっかけとなっています。



金沢営業所

「首や肩のコリ」「腰痛」対策の推進



金沢営業所ではアンケートを実施して、所員の健康に関する悩みを調査しました。すると、半数以上の方が身体の痛みを感じていることがわかったため、朝礼時に行っていた独自の体操をラジオ体操に変更し、首のコリや腰痛に悩んでいる方には追加でストレッチを実施しました。「朝一番に身体をしっかりと動かすことで心身共にスッキリするようになった」「運動への意識が変わった」などポジティブな声があがっており、ストレッチの実施や情報共有を今後も続けていくつもりです。

営業本部 北信越営業部
金沢営業所

坂井 勇紀



全社での取り組み デジタルサイネージの活用

全事業所に設置されているデジタルサイネージでは、社内報や各種お知らせのほか、ストレッチの動画など健康に関する情報提供を行っています。デジタルサイネージを用いることで「運動」に関する情報も動画でわかりやすく伝えられるようになりました。オリジナルの動画に経営層や従業員が出演するなど、楽しみながら健康について関心を高められるコンテンツとなっております。





ネグロス電工の安全への取り組み

企業の社会的責任を果たすためには、事業活動における安全性の追求が不可欠です。当社では、従業員やお客様、地域社会を含む全てのステークホルダーに対し、安全を最優先とした取り組みを進めています。

熱中症対策への取り組み

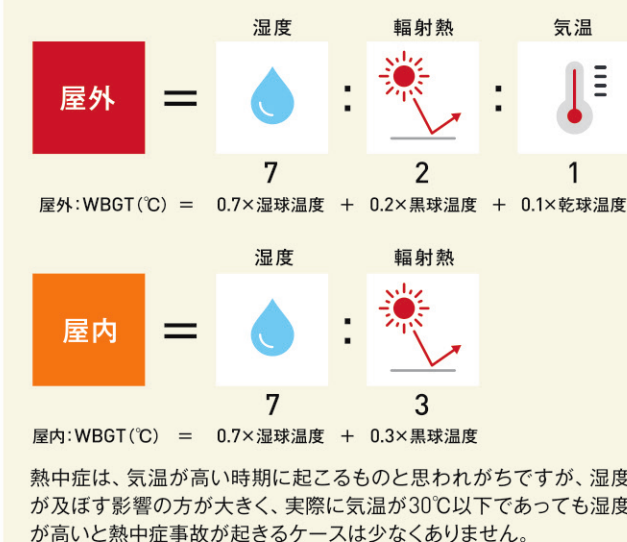
近年では気候変動に伴う猛暑日の増加により、熱中症リスクが深刻化しています。当社は、従業員の安全と健康を維持するため、暑さ指数(WBGT)の適切な管理をはじめとする職場環境の改善に取り組んでいます。

暑さ指数(WBGT)とは？

暑さ指数(WBGT:Wet Bulb Globe Temperature)とは、気温・湿度・輻射熱を総合的に評価し、熱中症予防に活用される指標です。

国際基準であるISO規格として認められ、労働環境や運動環境の安全管理に広く採用されています。

暑さ指数(WBGT)の計算方法

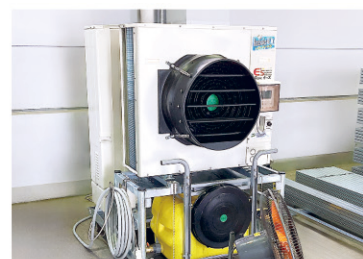


ネグロス熱中症対策

● スポットエアコンの導入

安全で快適な作業環境を整備するため、各事業所にスポットエアコンを導入しています。

スポットエアコンは、直進性の高い大風量の冷風を発するため、広い工場内でも特定の作業エリアを効率的に冷却することができます。また、冷却時に湿度を下げる効果があるため、多湿による不快感や体調不良を防ぎながら、暑さを効果的に和らげます。



● 遮熱シートの設置

輻射熱対策の一環として、従来から実施している遮熱塗装に加え、各工場および事業所に遮熱シートを導入しています。

この遮熱シートは特殊なアルミ素材を使用しており、太陽光の輻射熱を効果的に遮断することで、室内温度の上昇を防ぎます。また、この遮熱対策を通じて、冷房設備の稼働時間の削減や出力を抑制するなど、エネルギー効率の向上も目指しています。



● 空調服の貸与

気温上昇に伴う暑さ対策の一環として、全従業員を対象とした空調服貸与制度を設けています。

空調服は、内蔵されたファンが空気を循環させることによって体内の熱を効率的に放出する仕組みで、高温環境下においても快適に作業を続けられるようサポートします。



胸元にロゴがはいったネグロス仕様の空調服

サイバーインシデント対応訓練

近年、高度化・巧妙化するサイバー攻撃に対して、迅速かつ的確な対応を行うことは、企業運営において極めて重要です。当社では、不正アクセスやフィッシングなどによるマルウェア感染を想定したサイバーインシデント対応訓練を実施しています。

この訓練では、緊急時の被害を最小限に抑えるため、実際のサイバー攻撃シナリオをもとに、初動対応から復旧までの各段階における対応手順を役割ごとに確認・検証します。

訓練には、社長をはじめとする経営層や各部門の責任者が参加し、全社的に即応性のある意思決定が行える体制づくりを進めています。

また、訓練を通じて明らかになった課題をもとに対応体制を見直し、社内のセキュリティ強化に加え、サプライチェーン全体の防御力向上にも取り組んでいます。



訓練シナリオは当日まで伏せられていたため、実際の状況に近い中で実施されました。

安全運転講習

従業員一人ひとりの安全意識向上を目的とした社内向け安全運転講習を実施しています。

講師による指導を通じて、運転知識を身につけるだけでなく、実際の事例をもとに、事故発生の要因を身体的・心理的・環境的な観点から分析することで、安全運転への理解と改善の定着を目指しています。

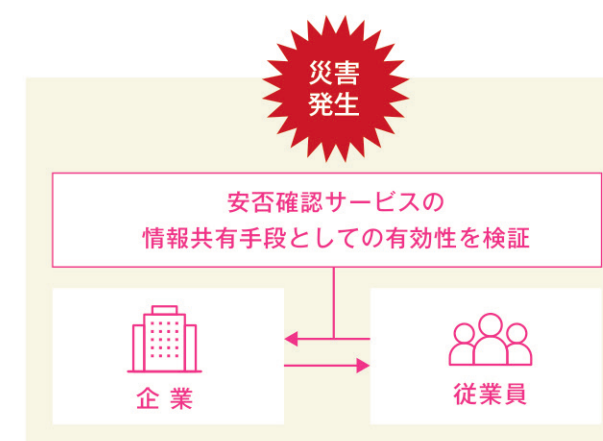


BCP訓練

当社は事業継続計画の一環として、全社員対象のBCP訓練を実施しています。

3度目の訓練となる今回は、災害時における情報共有手段のひとつとして、安否確認サービスのメッセージ機能を用いた訓練を行い、その有効性を検証しました。

この訓練を通じ、緊急時における全社レベルでの統制と円滑な伝達体制の確保を目指しています。





従業員の成長と働きやすさを両立する取り組み

当社には、従業員一人ひとりの成長と働きやすさを支えるさまざまな制度や取り組みがあります。今回は、実際に活用している社員の声とともに当社の取り組みをご紹介します。

事例 1

家庭と仕事、どちらも応援

育児短時間勤務制度とは、原則として3歳未満の子どもを養育している期間に、所定労働時間を6時間に短縮できる制度で、2009年にはこれらの規定を就業規則に盛り込むことが義務付けられました。しかし、法令通りの内容では小1の壁^(注1)や小3の壁といわれる子どもの環境変化に対応できず制度の効果が発揮できません。そこで当社では、対象期間を小学校卒業までに引き上げました。さらに、勤務する時間も多様な時間帯を選択できるなど、従業員が活用しやすい制度へ改定しています。

社員の声

仕事と育児 どちらも大切に

今回の制度改定で新たに追加された9:30～16:30の時間帯を選択したことによって、朝の慌ただしさから解放されました。子どもたちを落着いて学校や保育園に送り出せるようになり、朝から「早くしなさい!」と急かす回数が減ったことで、家族みんなが穏やかな気持ちで一日をスタートすることができています。

まだまだ子どもに手が掛かるため、小学校卒業まで期間が延長されたことが、大きな安心に繋がっています。今後も制度を活用しながら仕事と家族との時間を大切にしていきたいと思います。



総務部 総務課
矢野 祥子

(注1)小1の壁:子どもが小学校に入学した際に、保育園に預けて実現できていたことが難しくなること。その他、小3や小4の壁など、子どもの成長や環境の変化により、親のサポートが必要になる時期を指す言葉として使われています。

事例 2

共に育つ、企業と従業員

兼業とは、本業以外に自ら営む事業や他の仕事を掛け持ちして働くことです。当社は、兼業制度を通じて従業員のスキルアップとワークライフバランスを支援するとともに、企業や組織のイノベーションを促進したいと考えています。兼業で得たスキルや経験、柔軟な発想を本業にも活かしてもらうことで、従業員と企業の双方が共に成長して、新たな価値を生み出せる環境づくりを行っています。

社員の声

広がった視野が 仕事を進化させる

兼業ではクライアントからの依頼を受けて、ロゴやチラシ、動画、HPなどの制作や、イベント会場での映像投影も行っています。兼業を通じて、業界ごとの違う価値観を知ることができましたし、あらゆる情報共有をスムーズに行うことの重要性も知ることができました。本業でも他部署から依頼を受け、デザイン制作を行っています。兼業から得た経験で工数や相場観への理解が進み、業務委託先へ発注する際の価格交渉がスムーズに行えるようになりました。今後も兼業で得た知識を活用しながら、日々の業務を行っていききたいと思います。



経営企画部 経営企画課
澤野 直樹

事例 3

いつでもどこでも学べる環境を

当社は、従業員のスキル向上を目的にeラーニングを導入しています。時間や場所に縛られず自分のペースで学習でき、当社のように多拠点展開している企業やテレワークなどで働いている従業員にも一貫した教育を提供できるところが最大のメリットです。個々の進捗に応じたカスタマイズやシミュレーションを通じた実践的な学習も大きな魅力の一つ。効率的な学習システムが、人材育成を推進する強力なツールになっています。

社員の声

学んだ知識が 現場で生きる

現在所属する滋賀工場では、eラーニングを活用し、品質管理に必要な知識や、業務を自動化・情報化するOAスキルなどを習得し、自身の担当業務に役立てています。また、以前の部署では衛生管理者として、eラーニングを活用したメンタルヘルスに関する研修会を開催していました。研修を行う中で、普段は聞けないさまざまな意見を交換することができ、従業員同士のコミュニケーションが深まるきっかけとなりました。受講者からとても好評だったため、滋賀工場でも同様にeラーニングを積極的に活用した研修会を開催したいと思っています。



製造本部 第二製造部 滋賀工場
三井 良介

事例 4

従業員のアイデアが企業を変える

当社には、「らくてい^(注2)」と呼ばれる商品に関するアイデア提案制度と、企業の経営に関連する提案や意見を募集する「未来思考コンテスト」があります。いずれも年に一度表彰が行われ、優れたアイデアや提案には賞状と賞金が贈られます。実際に採用されて商品化したものや、経営計画や経営方針に取り入れられ、実施に至っている提案も数多くあります。企業の成長はもちろん、従業員のモチベーション向上にも役立っています。

社員の声

従業員の挑戦が 新たな価値を未来へつくる

「らくてい」と「未来思考コンテスト」への参加は、会社や製品の可能性を再認識する良い機会となりました。普段の業務において何となく考えていたことや、もっとこうすればいいのというアイデアを掘り下げつつ、当社がより社会に貢献できる可能性を意識して提案を行いました。このような取り組みは、従業員が主体的に意見を出し、未来思考で会社をより良くしていくための貴重な機会です。日々の業務の延長線上で自分のアイデアを提案できる場があることは、従業員にとって刺激となり、企業の発展にもつながると思います。



営業本部 首都圏営業部 足立営業所
野口 達司

(注2)らくてい:「楽(らく)に、提案(ていあん)できる」を略して「らくてい」。お客様や従業員からの要望やアイデアをもとに、商品の改善や新しい提案を簡単にできる仕組みを導入しています。

CORPORATE DATA

[コーポレートデータ]

社 名 ネグロス電工株式会社

創 業 1947年(昭和22年)6月1日

設 立 1953年(昭和28年)10月1日

代 表 者 代表取締役社長 菅谷 三樹生

本 社 〒136-0071 東京都江東区亀戸2-40-1
TEL:03-5628-7111

従業員数 1,567名(2025年4月現在)

事業内容 電気・空衛設備資材の
製品開発・製造・販売(卸)

主要製品 ケーブルラック、レースウェイ、
パイラック ほか

[グループ会社(五十音順)]

KYODENSHA VIETNAM CO., LTD

Floor 12, SGR Building, 167-169 Dien Bien Phu st,
Da Kao Ward, District 1, Ho Chi Minh City, Vietnam.

株式会社古西電機

[本 社] 〒140-8678 東京都品川区南品川2-16-6
[大 阪 営 業 所] 〒555-0021 大阪府大阪市西淀川区歌島2-12-28
[鹿 島 営 業 所] 〒314-0022 茨城県鹿嶋市長栖1879-33

五洋電設株式会社

[本 社] 〒132-0021 東京都江戸川区中央1-3-5

株式会社鈴木シャーリング

[本 社] 〒132-0021 東京都江戸川区中央3-11-16

株式会社東亜商会

[本 社] 〒577-0063 大阪府東大阪市川俣1-18-35
[名 古 屋 支 店] 〒452-0942 愛知県清須市清州田中町45

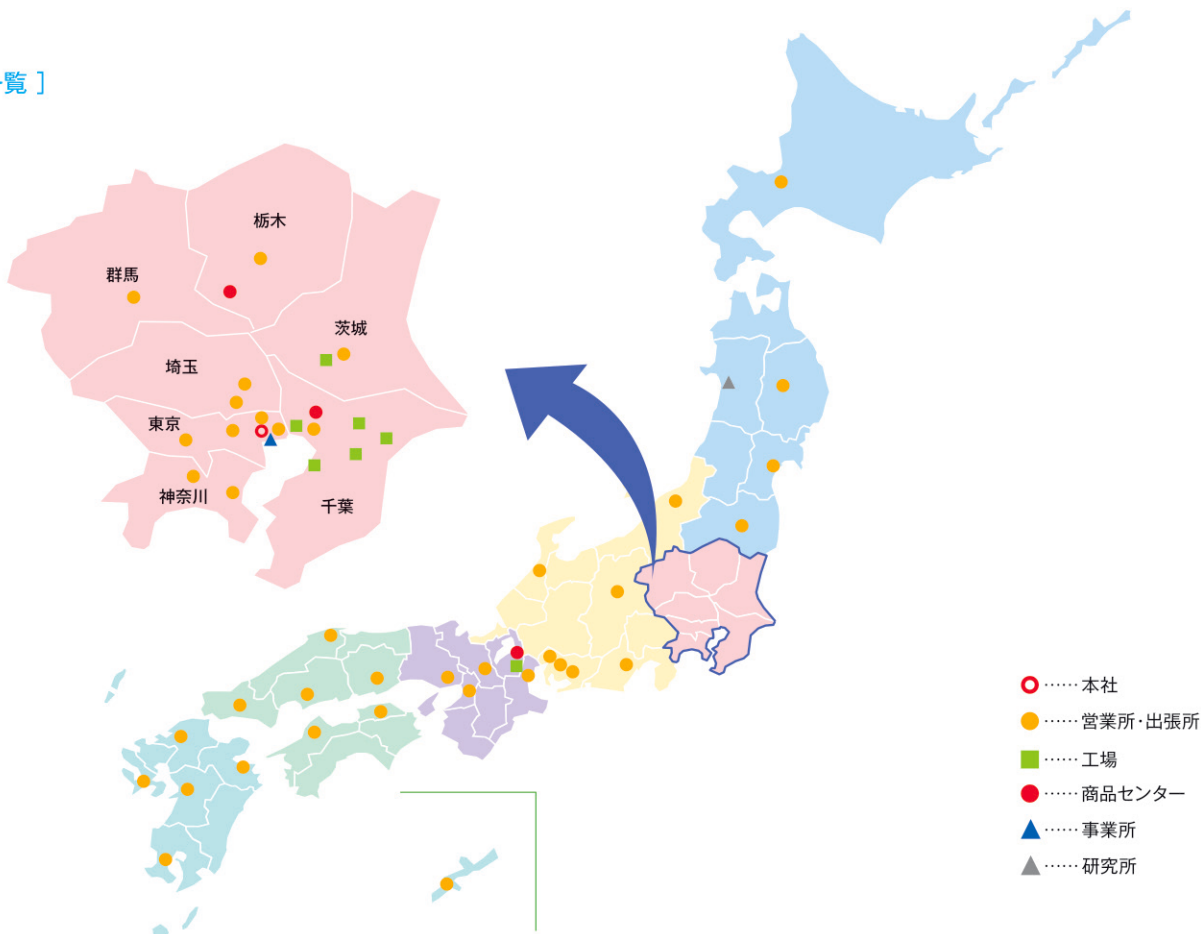
ネグロス空調株式会社

[本 社] 〒132-0021 東京都江戸川区中央1-3-20

ファイアーランス工業株式会社

[本 社] 〒132-0025 東京都江戸川区松江2-27-11
[関 西 営 業 所] 〒552-0016 大阪府大阪市港区三先2-12-19
[仙 台 営 業 所] 〒984-0056 宮城県仙台市若林区成田町61-1
[名 古 屋 営 業 所] 〒464-0075 愛知県名古屋市中千種区内山2-14-21

[拠点一覧]



[営業拠点]

北海道・東北

札幌営業所
盛岡営業所
仙台営業所
郡山営業所

関東

千葉営業所
東京中央営業所
足立営業所
東京北営業所
新宿事務所
前橋営業所
栃木営業所
土浦営業所
大宮営業所
八王子営業所
横浜営業所
厚木営業所

中部

新潟営業所
松本営業所
金沢営業所
静岡営業所
三河営業所
名古屋営業所
名岐営業所

近畿

京都営業所
大阪営業所
神戸営業所
三重営業所

中国・四国

高松営業所
岡山営業所
広島営業所
山口営業所
松山出張所
松江出張所

九州・沖縄

福岡営業所
熊本営業所
鹿児島営業所
沖縄営業所
長崎出張所
大分出張所

[生産拠点]

浦安工場
筑波工場
八街工場
成田工場
市原工場
市原第二工場
横芝工場
滋賀工場

[物流拠点]

船橋商品センター
佐野商品センター
滋賀商品センター

[技術拠点]

東雲事業所
秋田研究所

TOPIC

ISO 14001の10年永年登録を表彰いただきました。

環境マネジメントシステムISO 14001について、当社横芝工場が継続認証を受けて10年の節目を迎えたとして、この度、日本規格協会ソリューションズ株式会社様より表彰状をいただきました(2024年9月20日受賞)。今後も継続的に取り組んでまいります。



本社(亀戸ビル)



営業所(東京中央)



商品センター(佐野)



工場(市原)